

2017年度事業報告

I. 研究発表会、講演会等の開催

1. 日本心理学会第81回大会

期日：2017年9月20日(水)―22日(金)

会場：久留米シティプラザ

大会会長：津田 彰 (久留米大学教授)

2. 公開シンポジウム

(1) 「社会のための心理学」シリーズ

(a) 紛争問題を考える2<全2回>

第1回 集団心理の分析

期日：10月8日(日)

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

第2回 紛争地域に探る和解プロセス

期日：12月16日(土)

会場：東京大学駒場キャンパス

(b) 死について考える心理学<全2回>

第1回 期日：8月27日(日)

会場：東洋大学白山キャンパス

第2回 期日：9月3日(日)

会場：京都女子大学

(c) 貧困社会を考える——心理学は何ができるのか—— <全2回>

第1回 期日：8月26日(土)

会場：東京大学駒場キャンパス

第2回 期日：12月9日(土)

会場：京都女子大学

(d) 司法面接——被面接者への心理的配慮と事実の解明—— <全2回>

第1回 期日：11月18日(土)

会場：福岡大学

第2回 期日：12月2日(土)

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

(2) 「科学としての心理学」シリーズ

(a) “共感する心”を科学する<全2回>

第1回 期日：11月11日(土)

会場：京都大学宇治キャンパス

第2回 期日：2018年3月3日(土)

会場：東北大学川内キャンパス

(b) 「データの時代」の心理学を考える <全2回>

第1回 期日：9月22日(金)

会場：久留米シティプラザ

第2回 期日：10月7日(土)

会場：慶應義塾大学三田キャンパス

(3) 高校生のための心理学講座

全国14か所（北海道，東北，関東1・2・3，中部1・2，関西1・2，中国・四国1・2，九州・沖縄1・2・3）

3. 第81回大会時日本心理学会企画シンポジウム等

(a) 英語論文投稿への道 2017

（企画：機関誌等編集委員会 Japanese Psychological Research編集小委員会）

(b) PSYence Communicationしよう！（企画：教育研究委員会 博物館小委員会）

(c) 「データの時代」の心理学を考える（企画：教育研究委員会 講演・出版等企画小委員会）

(d) 災害復興と心理学（企画：東日本大震災復興支援特別委員会）

(e) 「若手の会」企画

(1) 若手のワンショット発表会とプレゼンバトル

(2) キャリアパスの第一歩——大学院の選び方——

(3) 若手のための進路相談会

(f) 公認心理師法施行にあたって——社会に貢献する心理職を目指して——

(g) 社会で活きている心理学

——認定心理士の会／認定心理士の活動をアカデミアへ還流する——

（企画：認定心理士の会）

(h) 心理学検定のこれまでとこれから（企画：日本心理学諸学会連合）

(i) 絆形成の行動科学・心理学——動物，ロボット，想像上の他者——

（企画・共催：日本行動科学学会）

(j) アニメの心理学III

(k) 【日本心理学会設立90周年記念】元良勇次郎と日本の心理学の始まり

（企画：教育研究委員会 資料保存小委員会）

II. 学会誌，研究報告書及びその他の資料の刊行

1. 「心理学研究」第88巻第1号—第6号を刊行した。

2. “Japanese Psychological Research” Vol. 59, No. 2-No. 4 & Vol. 60, No. 1を刊行した。

3. 「心理学ワールド」第77号—第80号を刊行した。

4. 「心理学叢書」の刊行

「病気のひとのこころ——医療のなかでの心理学——」（松井 三枝・井村 修編），「心理学って何だろうか？——四千人の調査から見える期待と現実——」（教育研究委員会 調査小委員会 企画）を刊行した。

III. 研究及び調査の実施

1. 大学の心理学教育に関する調査・研究

継続的調査を行うための検討を行った。

2. 2011年度以来実施した調査結果を，心理学叢書「心理学って何だろうか？——四千人の調査から見える期待と現実——」として刊行した。

3. 心理学の歴史的資料の保存・調査

古典的実験機器類の調査・撮影を行い，心理学ミュージアムの歴史館で公開した。

4. オーラル・ヒストリーの収集

名誉会員へのオーラル・ヒストリー聞き取りを行った。

IV. 国内の学術団体との学術研究協力

1. 日本学術会議

公開シンポジウム「司法面接——被面接者への心理的配慮と事実の解明——」を、日本学術会議心理学・教育学委員会の法と心理学分科会および社会のための心理学分科会と共催した。

日本学術会議総合工学委員会主催「安全工学シンポジウム2017」を共催した。

2. 日本心理学諸学会連合

本会から3名、理事として参加している。

会費および認定心理士承認料を支払った。

3. 日本脳科学関連学会連合

本会から3名、評議員として参加している。

会費を支払った。

V. 国際的な学術研究協力

1. 国際心理科学連合

分担金を支払った。

2. 国際テスト委員会

分担金を支払った。

3. 各国心理学会との研究協力

以下各国と協力協定に基づき、連絡協力を行った。

英国心理学会

スウェーデン心理学会

ロシア心理学会

南アフリカ心理学会

韓国心理学会

中国心理学会

台湾心理学会

インドネシア心理学会

フィリピン心理学会

マレーシア心理学会

インド心理学会

アメリカ心理学会

オーストラリア心理学会

4. 日中韓シンポジウム

日中韓三ヶ国シンポジウムを企画した。(実施は次年度以降に延期)

5. Asia-Pacific Psychological Alliance (APPA)

2月20日-22日インドネシアバリ島で開催された会議に出席した。

VI. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1. 公益社団法人日本心理学会優秀論文賞の選考・授与

2016年度刊行の「心理学研究」掲載の原著論文、研究資料、および“Japanese Psychological Research”掲載のOriginal Articleのうちから選考委員会において受賞論文を決定し、2017年度会員集会時に授賞式を行った。

<優秀論文賞>

(a) 日本語版 DDFS および MWQ の作成

著者 梶村 昇吾・野村 理朗 (京都大学)

(心理学研究 第87巻第1号 研究資料)

(b) 表情の快・不快情報が選好判断に及ぼす影響——絶対数と割合の効果——

著者 布井 雅人 (聖泉大学)・吉川 左紀子 (京都大学)

(心理学研究 第87巻第4号 原著論文)

(c) Personality Change from Life Experiences: Moderation Effect of Attachment Security

著者 川本 哲也 (東京大学)

(Japanese Psychological Research, Vol.58, No.2. Original Article)

(d) The Sanitary-Mask Effect on Perceived Facial Attractiveness

著者 宮崎 由樹 (福山大学)・河原 純一郎 (北海道大学)

(Japanese Psychological Research, Vol.58, No.3. Original Article)

2. 公益社団法人日本心理学会国際賞の選考・授与

国際賞選考委員会にて、国際賞授賞者を選考した。2017年度会員集会時に授賞式を行った。

<特別賞> 渡辺 茂 (慶應義塾大学名誉教授)

<功労賞> 繁樹 算男 (慶應義塾大学/東京大学名誉教授)

<奨励賞> 宇佐美 慧 (東京大学高大接続研究開発センター)

狩野 文浩 (熊本サンクチュアリ/京都大学理学研究科野生動物研究センター)

守谷 順 (関西大学)

3. 公益社団法人日本心理学会学術大会優秀発表賞の選考 (・授与)

第81回大会において、全ポスター発表を対象に、大会参加者全員を審査者として、学術大会優秀発表賞の投票を行い、8件に特別優秀発表賞、28件に優秀発表賞を授賞することを決定した。2018年度会員集会で授賞式を行う。

4. 公益社団法人日本心理学会心理学ミュージアム作品賞の選考・授与

心理学ミュージアム展示室に掲載する作品を公募し、応募作品から優秀作品賞授賞作品を選考した。2017年度会員集会時に授賞式を行った。

<最優秀作品賞>

暗いものが光る——グレア効果——

製作者 小林 勇輝 (大阪大学)

<優秀作品賞>

人はなぜ加害者への厳罰を求めるのか？

——エラー管理と加害者の非人間化——

製作者 村山 綾 (近畿大学)・田渕 恵 (日本学術振興会・関西学院大学)

5. 研究集会等への支援

26件の研究会へ助成を行った。

6. 国際会議参加者への旅費補助

19名の国際会議参加者への旅費補助を行った。

7. 災害からの復興のための実践活動及び研究の助成

第2回「災害からの復興のための実践活動及び研究」を公募し、4件に助成を行った。

8. 若手の会

2018年3月31日現在の会員数は、156名であった。

若手の会ニューズレターを発行した。

コラムリレー第28回—第37回を発行した。

以下のようなキャンプセミナーを開催した。

(a) 異分野間協働懇話会

日程：2018年 3月5日(月), 6日(火)

会場：国立女性教育会館

第81回大会時に、以下のような企画を開催した。(I-3-(e))

(1) 若手のワンショット発表会とプレゼンバトル

(2) キャリアパスの第一歩——大学院の選び方——

(3) 若手のための進路相談会

VII. 資格認定及び研修

1. 公益社団法人日本心理学会認定心理士資格の審査と授与

2018年3月31日現在までに、総件数3,729件(うち電子申請533件)を審査し、3,598名を合格、58名を不合格、73名を保留とした。

必要な手続を経て資格を取得した者は3,510名であった。

2. 公益社団法人日本心理学会認定心理士(心理調査)資格の審査と授与

2018年3月31日現在、総件数70件を審査し、52名を合格、3名を不合格、15名を保留とした。

必要な手続を経て、認定心理士資格と同時に資格を取得した者は51名であった。

3. (公開)講演会・シンポジウム・研修会

I-2. 公開シンポジウムおよび認定心理士の会シンポジウム・ワークショップとして開催した。

4. 認定心理士の会

2018年3月31日現在の会員数は、3,608名であった。

地方部会を発足した。(北海道, 東北, 関東, 北陸, 東海, 近畿, 中国・四国, 九州・沖縄)

4回の全国セミナーを行った。

5月20日 広島(東広島芸術文化ホールくらら)

9月 9日 横須賀(国立特別支援教育総合研究所)

11月 5日 京都(京都橘大学)

12月 2日 名古屋(愛知淑徳大学)

第81回大会時にシンポジウムを行った。(I-3-(g))

地方心理学会で4回の共催等のシンポジウム・講演を行った。

認定心理士の会ニューズレターを2回発行した。

Net de 交流!認定心理士を2回開催した。

5. 教科書等の刊行

「<認定心理士資格準拠>実験・実習で学ぶ心理学の基礎」を増刷した。

6. 公認心理師資格関連

公認心理師省令科目の認定心理士科目各領域への対応表(案)を作成した。

公認心理師大学カリキュラム 標準シラバス(案)を作成した。

資格制度調整委員会を発足した。

VIII. その他目的を達成するために必要な事業

1. 心理学の普及・啓発のための広報活動

Webで「心理学ミュージアム」を公開した。

学会ホームページをリニューアルした。

2. 倫理規程の継続的な検討・倫理問題の解決

倫理委員会にて問題を検討し対処した。

3. 選挙の実施

(1) 理事長・常務理事選挙の実施

理事長・常務理事選挙を実施した。

4. その他

(1) 学会90周年記念事業

日本心理学会90周年記念事業として、本年度の公開シンポジウム、歴史的資料の保存・調査、大会発表論文集のアーカイブ化、災害からの復興のための実践活動及び研究の助成を行った。

(2) 部門・部会制の検討

認定心理士の会の地方支部会を発足した。

(3) ICP2016記念事業

国際心理学会議(ICP2016)の記念事業を検討した。

以上